

## 成人看護学実習における健康増進センター実習の学び（第2報）

～実習記録内容と評価表の分析より～

甲賀 純子<sup>1)</sup> 横田 修二<sup>2)</sup> 宮堀 真澄<sup>3)</sup>

### Learning of Health-Promotion- Center training program in adult nursing clinical training (The second report)

～Than training record contents and analysis of evaluation list～

Junko KOUGA Shuji YOKOTA Masumi MIYAHORI

#### 要旨

成人看護学実習における健康増進センター実習での効果的な実習方法を検討することを目的に、学生の実習記録内容の分析結果（第1報）と評価項目の得点割合の照合から、目標の達成度の分析を行った。その結果、以下のことが明らかになった。①学生は、生活習慣病と健康教育について学習できている。②健康増進センター実習は、看護職者として取り組む健康の保持増進と健康障害の予防に関わる能力の育成につながる機会となっている。③「対象に応じた看護」の理解の一因となり、成人看護学実習の目標達成のためには有効である。④対象に応じた健康教育を考察できるまでには至っていない。

今後の課題として、①学習の機会を有効に活用するために学内事前オリエンテーションの充実を図ること。②学生が経験したことを考察へと結び付けていけるように、カンファレンスでの教員の働きかけが必要なこと。③記述すべき内容の焦点を絞ることができ、思考段階を踏むことができるように実習記録用紙を変更する必要があること、などの実習方法について検討の必要性が示唆された。

キーワード：成人看護学実習、健康増進センター実習、学び、実習記録、実習の意義

Summary : From studying (the first report) and the collation of the score ratio of an evaluation item that we got from analysis of training record contents of a student, we could analyzed the achievement degree of the aim for clarifying learning in health promotion center training in nursing science training, and for examining a more effective training method. As a result, the following became clear. A student can learn about lifestyle-related disease and health education. It is with the opportunity when health promotion center training is connected to upbringing of ability to be concerned with prevention of maintenance increase and an obstacle of health to wrestle with as a person in post nursing. In addition, it become a cause of understanding of “the nursing that accepted an object” and an effective accomplishment of nursing science training. However, we plan substantiality orientation in study to utilize the opportunity of learning as a future problem solver. Pressure by teachers in conference, training is necessary to be able to tie what a student experienced to consideration. We can a focus on the contents which we should describe and have to change our training record paper to be able to go through thought stage. Then ecessity of examination was suggested for these training methods.

Key words : Adult nursing clinical training, Health -Promotion- Center,  
learning ability, training record, Significance of clinical training

看護学科 1) 助手 2) 助手 3) 教授

本研究は、第7回日本赤十字看護学会において発表したものに一部加筆したものである。

## I. はじめに

成人期にある人々は、職場や家族の人間関係や役割行動を遂行していく上で様々な心理的・社会的問題に直面しており、これらのストレスに関連した健康問題が生じる時期である。さらに、毎日の生活が習慣化され、個人のライフスタイルが形成されており、飲酒・喫煙・暴飲などに関連した生活習慣病が発生する時期でもある。成人期にある人々にとっての生活習慣の改善は、疾病の予防に不可欠であり、健康的な生活習慣を確立することによって、健康の増進や疾病の発生を予防することが重要である。近年、この一次予防を目的に行動変容を促していくための健康教育において、看護の役割は大きくなってきている。石井は看護系大学の卒業時に必要な看護実践能力として健康の保持増進と健康障害の予防に向けた支援を挙げ、セルフケアを支援するために看護職者として取り組む健康の保持増進と健康障害の予防に関わる能力の重要性を述べている。<sup>1)</sup>

A短期大学では成人看護学実習の中で様々な健康レベルの対象を理解するための一つとして、健康増進センターでの実習を取り入れている。健康増進センター実習では健康レベルの違う対象を理解するだけでなく、生活習慣病予防と健康教育について学習できる場でもある。筆者等の研究(第1報)において、A短期大学の健康増進センター実習での学びと課題が明らかとなった。看護学実習の中で健康増進センターの実習を取り入れている学校は少なく、先行研究でも一次予防・健康教育に関する理解について研究したものは少ない。そこで、健康増進センター実習の意義を明らかにすると共に、学習効果の向上を目指して実習方法のあり方を検討したい。

## II. 研究目的

学生の実習記録内容と評価表の分析から健康増進センター実習の意義を明らかにし、より効果的な実習方法を検討する。

## III. 研究方法

### 1. 研究対象

2005年度看護学科3年次生77名のうち、研究に同意が得られた学生69名(89%)の健康増進センター実習の記録内容を分析対象とし

た。

### 2. 研究期間

2005年12月19日～2006年1月30日

### 3. 研究方法

健康増進センターの実習記録用紙の「看護の役割」と「健康教育についてのまとめ」に記載された文章を、単一要素になるようにセンテンスを区切り、これを1件として、意味内容が類似すると判断したものを、カテゴリー・サブカテゴリー化し命名した。そして、健康増進センターの5つの実習評価項目に対応すると判断されたサブカテゴリーを抽出し、記述件数と実習評価の得点を照合し、実習目標の達成度を分析した。実習記録の評価は2名の教員で行った。

### 4. 用語の定義

本研究で用いる「学び」とは、健康増進センターでの実習やカンファレンスを通して学生が捉え、実習記録の記入によって整理された学生の認識とする。

### 5. 健康増進センター実習の概要(表1)

表1 健康増進センター実習の概要

成人看護学実習の目的	成人期にある人々を総合的に理解し、対象に応じた看護を実践できる能力を養う
成人看護学実習の目標	1)成人期にある人々の特徴を理解できる 2)成人期にある人々を支える家族について理解できる 3)成人期にある人々が、健康な生活を維持、増進するために必要な看護の役割について理解できる 4)成人期にある人々の健康障害時の状況に応じた看護を展開できる
健康増進センター実習目標	生活習慣病の予防と健康教育を理解できる
健康増進センター実習の位置づけ	成人看護学実習の目的を達成するために、病棟実習7週と「救命救急実習(救命外来・ICU)」「胃センター実習」「健康増進センター実習」を各1日行っている。
実習時期	成人看護学実習の最終クール前後1週間に設定
実習時間	8:30～15:30
1グループの学生数	5～6人
実習方法	1)事前学内オリエンテーションの実施 (1)実習指導教員による実習の位置付けと意義の説明 (2)実習指導者による健康増進センターの概要の説明 (3)記録用紙の説明 2)実習は、午前中は1～2名に分かれ「日帰りドック」「宿泊ドック」「乳房検診」「婦人科検診」「乳房・婦人科検診については各検診終了後「日帰りドック」を見学)の各担当看護師に付き、見学を中心とした実習を行う。 3)午後カンファレンスを実施し、学びを共有する。 4)記録用紙の提出(A3サイズ) 図1参照 記録用紙の設定項目 (1)対象の特徴と検診の内容 (2)看護の役割 (3)健康教育についてのまとめ

6. 健康増進センター実習の評価項目と実習記録内容の評価基準

1) 健康増進センターの評価項目

- ①対象の健康に対する意識を理解できる。
- ②生活習慣病と疾病の発生要因の関連性を認識できる。
- ③生活習慣病予防のための検診内容および結果の取り扱いについて理解できる。
- ④生活習慣病予防における看護の役割について理解できる。
- ⑤健康教育のあり方について考察できる。

2) 実習記録内容の評価基準

実習記録内容について、評価項目に沿って、以下の基準で点数化した。

- 4点：必要な内容が適切な用語で明確に記載されている。
- 3点：必要な内容が記載されている。
- 2点：必要な内容が記載されていない。
- 1点：記載内容・記載量とも不十分。

7. 倫理的配慮

2005年度成人看護学実習終了後、研究目的と方法について口頭および文章で以下の内容を学生に説明し、同意の得られた学生を対象とした。1) 研究への同意・不同意は自由意思であること。2) 研究への同意・不同意は実習評価には一切関係がなく、不利益は生じないこと。3) 記録の使用に際し、プライバシーは厳重に保護されること。4) 記録は研究以外には使用しないこと。5) 研究結果や途中経過については、いつでも確認・問い合わせができること。6) 研究への同意撤回はいつでもできること。

IV. 結果

「看護の役割」「健康教育についてのまとめ」の項目の実習記録の内容をカテゴリー・サブカテゴリー化した。(表2・表3)

表2・表3を基に、実習評価の各項目に対応すると判断されたサブカテゴリーを抽出した。(表4)

1. 評価項目1《対象の健康に対する意識を理解できる》に対応するサブカテゴリーは、看護の役割では①心理的特徴、②ライフステー

表2 「看護の役割」として学んだ内容分析結果

番号	カテゴリー	サブカテゴリー	n=831
1	健康診断時の援助	①精神面への配慮	131(15.8%)
		②対象のアセスメント	58(7.0%)
		③セルフケアへの支援	46(5.5%)
		小計	235(28.3%)
2	健康増進センターにおける看護の役割	①安全と満足の保障	64(7.7%)
		②対象の健康への働きかけ	62(7.5%)
		小計	126(15.2%)
3	体制について	①検診の介助	48(5.8%)
		②他職種間の連携	37(4.5%)
		③業務内容	36(4.3%)
		小計	121(14.6%)
4	健康教育における指導技術	①意識への働きかけ	84(10.1%)
		②行動変容への支援	35(4.2%)
		小計	119(14.3%)
5	健康診断の理解	①健康診断の実際	54(6.5%)
		②健康診断の対象	13(1.6%)
		小計	67(8.1%)
6	学生の感想	①学生が聞知したこと	17(2.0%)
		②今回の実習で感じたこと・学んだこと	16(1.9%)
		③今までの実習で学んだこと	15(1.8%)
		小計	48(5.7%)
7	対象の特徴	①心理的特徴	26(3.1%)
		②ライフステージから見た特徴	11(1.3%)
		③患者との違い	7(0.8%)
		小計	44(5.2%)
8	健康診断時の看護師の能力・技術	①求められる知識	18(2.2%)
		②求められる技術	18(2.2%)
		小計	36(4.4%)
9	健康増進センターの目的の理解	①健康の保持・増進	9(1.1%)
		②早期発見・疾病予防	9(1.1%)
		小計	18(2.2%)
10	看護の定義		15(1.8%)
11	受診者の役割	①自ら考え決定すること	1(0.1%)
		②努力の継続	1(0.1%)
		小計	2(0.2%)

表3 「健康教育について」学んだ内容分析結果

番号	カテゴリー	サブカテゴリー	n=1203
1	健康教育における看護師の役割	①指導的役割	448(37.3%)
		②支援者としての役割	73(6.1%)
		③自己研鑽	41(3.4%)
		小計	562(46.8%)
2	健康教育の理解	①健康教育の方法	103(8.6%)
		②健康教育の意義	69(5.7%)
		③健康教育と一次・二次予防の関係	23(1.9%)
		④具体的教育内容	18(1.5%)
小計	213(17.7%)		
3	対象の理解	①受診者の持つ健康意識	91(7.6%)
		②ライフステージから捉えた受診者	58(4.8%)
		③受診者の特性	29(2.4%)
		④受診者の心理的側面	6(0.5%)
小計	184(15.3%)		
4	学生の振り返り	①実習を通して感じたこと	59(4.9%)
		②経験をを通しての学び	23(1.9%)
		③実習目標の自己評価	12(1.1%)
		④今後の自己目標	10(0.8%)
		⑤健康増進センター看護師への感想	4(0.3%)
		小計	108(9.0%)
5	健康増進センターの理解	①健康増進センターの役割	22(1.8%)
		②他職種の役割	19(1.6%)
		③健康増進センターの実際	17(1.4%)
		④健康増進センターの目的と意義	10(0.8%)
小計	68(5.6%)		
6	健康診断の理解	①健康診断の実際	15(1.3%)
		②健康診断の目的	11(0.9%)
		③各検診の理解	5(0.4%)
		小計	31(2.6%)
7	疾患の理解	①生活習慣病	12(1.1%)
		②慢性疾患	4(0.3%)
		小計	16(1.4%)
8	定義・理念	①健康日本21	7(0.5%)
		②健康あきた21	4(0.3%)
		③WHOの健康・健康教育	4(0.3%)
		小計	15(1.1%)
9	受診者の役割	①自ら考え決定すること	4(0.3%)
		②適切な指導を受けること	2(0.2%)
		小計	6(0.5%)

ジから見た特徴、③患者との違い、であった。健康教育については、①受診者のもつ健康意識、②ライフステージから捉えた受診者、③受診者の特性、④受診者の心理的側面、であった。記述件数は合計で228件であった。具体的な記述内容は、「何か異常が発見されるのではないかという不安を感じている。」「社会的立場や家庭的役割もあり、健康の保持・増進に向けた行動になかなか移すことができない。」などであった。

表4 評価項目に対応するサブカテゴリーと平均得点

評価項目	評価項目に対応するサブカテゴリー	記述件数	記述割合%	平均得点	
1 対象の健康に対する意識を理解できる	看護の役割	①心理的特徴	26	1.3	教員評価 2.9 自己評価 3.0
		②ライフステージから見た特徴	11	0.5	
		③患者との違い	7	0.3	
	健康教育について	①受診者の持つ健康意識	91	4.5	
		②ライフステージから捉えた受診者	58	2.9	
		③受診者の特性	29	1.4	
		④受診者の心理的側面	6	0.3	
合計	228	11.2			
2 生活習慣病と疾病の発生要因の関連性を認識できる	看護の役割	①意識への働きかけ	84	4.1	教員評価 2.8 自己評価 2.9
		②健康教育の方法	103	5.1	
	健康教育について	②健康教育の意義	69	3.4	
		③健康教育と一次・二次予防の関係	23	1.1	
		④具体的教育内容	18	0.9	
		合計	297	14.6	
3 生活習慣病予防のための検診内容および結果の取り扱いについて理解できる	看護の役割	①検診の介助	48	2.4	教員評価 2.7 自己評価 2.8
		②他職種間の連携	37	1.8	
		③業務内容	36	1.8	
	健康教育について	①各検診の理解	5	0.2	
		合計	126	6.1	
		合計	126	6.1	
4 生活習慣病予防における看護の役割について理解できる	看護の役割	①精神面への配慮	131	6.4	教員評価 3.2 自己評価 3.1
		②対象のアセスメント	58	2.9	
		③セルフケアへの支援	46	2.3	
		④安全と満足の保障	64	3.1	
		⑤対象の健康への働きかけ	62	3.0	
		⑥意識への働きかけ	84	4.1	
		⑦行動変容への支援	35	1.7	
	健康教育について	①指導的役割	448	22.0	
		②支援者としての役割	73	3.6	
		合計	1001	49.2	
5 健康教育のあり方について考察できる	看護の役割	①意識への働きかけ	84	4.1	教員評価 3.0 自己評価 3.1
		②健康教育の方法	103	5.1	
	健康教育について	②健康教育の意義	69	3.4	
		③健康教育と一次・二次予防の関係	23	1.1	
		④具体的教育内容	18	0.9	
		合計	297	14.6	

\*記述割合は、「看護の役割」と「健康教育について」の合計2034の記述件数に対する割合である。

評価平均点は教員評価2.9点、学生自己評価3.0点であった。

2. 評価項目2《生活習慣病と疾病の発生要因の関連性を認識できる》に対応するサブカテゴリーは、看護の役割では①意識への働きかけ、であった。健康教育については、①健康教育の方法、②健康教育の意義、③健康教育と一次・二次予防の関係、④具体的教育内容、であった。記述件数は合計で297件であった。具体的な記述内容は、「検査値に異常が見られた場合は、考えられる原因を生活習慣より振り返りながら、受診者と一緒に考える。」「より具体的に生活パターンや考えにあったものを指導していく。」などであった。

評価平均点は教員評価2.8点、自己評価2.9点であった。

3. 評価項目3《生活習慣病予防のための検診内容および結果の取り扱いについて理解できる》に対応するサブカテゴリーは、看護の役割では①検診の介助、②他職種間の連携、③業務内容、であった。健康教育については、①各検診の理解、であった。記述件数は合計

で126件であり、評価項目中最も少なかった。具体的な記述内容は、「去年の情報やデータと現在の受診者の状態を統合しながら対応する。」「現在の状態を知ると同時に、二次検査の必要性も伝える。」などであった。

評価平均点も教員評価2.7点、自己評価2.8点と最も低かった。

4. 評価項目4《生活習慣病予防における看護の役割について理解できる》に対応するサブカテゴリーは、看護の役割では①精神面への配慮、②対象のアセスメント、③セルフケアへの支援、④安全と満足の保障、⑤対象の健康への働きかけ、⑥意識への働きかけ、⑦行動変容への支援、であった。健康教育については、①指導的役割、②支援者としての役割、であった。記述件数は合計で1001件であり、評価項目中最も多く、サブカテゴリー数も9つで最も多かった。具体的な記述内容は、「問題点に対して、受診者自らが解決しているように関わる。」「受診者が実行していることを確認し、健康につながっている行動を認め・褒め、意欲を引き出すことで、継続につなげていく。」などであった。

評価平均点も教員評価3.2点、自己評価3.1点であり最も高かった。

5. 評価項目5《健康教育のあり方について考察できる》に対応するサブカテゴリーは、看護の役割では①意識への働きかけ、であった。健康教育については、①健康教育の方法、②健康教育の意義、③健康教育と一次・二次予防の関係、④具体的教育内容、であった。記述件数は合計で297件であった。具体的な記述内容は、「対象の重視している点に働きかけていくことが、行動変容につながる。」「健康教育では、受診者自身にも一緒に考えてもらう場面を提供する。」などであった。

評価平均点は教員評価3.0点、学生自己評価3.1点であった。

## V. 考察

1. 評価項目1《対象の健康に対する意識を理解できる》については、受診者の健康意識や心理的特徴、成人期の心理的特徴など、様々な側面から受診者の健康意識を捉えることが

できている。また、今までの実習との比較から、患者との意識の違いにも気付くことができている。これらのことから、健康増進センター実習は、成人看護学実習の最終クールに行うため、病棟実習での学びを活かして対象の健康レベルの違いを認識することができ、健康に対する意識の違いも理解することができたと考える。また、救命救急実習や腎センター実習を通して、様々な健康レベルの対象と接するため、全く違う対象と接することで比較しやすく理解につながったと考える。したがって、成人看護学実習の最終クールで健康増進センター実習を設定すること、および健康レベルの違う対象に接することが、成人看護学実習の目標である「対象の理解」を達成するためには有効であったと考える。

さらに、多くの受診者の健康教育の中で、受診者の思いを引き出す看護師の関わりを見学したことで、対象の健康に対する意識を理解することができたと考える。

2. 評価項目2《生活習慣と疾患の発生要因の関連性を認識できる》については、看護師の健康教育の見学から、受診者の意識に働きかけ、生活習慣の行動変容に向けての指導を学ぶことができている。問診票と検査データの結果から生活習慣一つ一つを確認し、行動変容に向けて受診者と共に解決策を考えていく姿勢を見学することで、生活習慣と疾患の発生要因の関連性の認識につなげることができたと考える。

3. 評価項目3《生活習慣病予防のための検診内容および結果の取り扱いについて理解できる》については、学生が実際に見学できたことやカンファレンスで共有できた内容については記述でき、各検診の介助や他職種間の連携を通して学ぶことができていた。

しかし、記述件数が最も少なく、評価の平均点も最も低かった。記録内容では、健診結果を今後の健康維持・増進活動にどのように活用していくべきであるのかという視点が不足していた。これは、対象は入院生活を送っている患者ではなく、家で生活し社会生活を送っている人という視点や認識が不足していることや、健康を意識した生活に対する学生自身の生活体験の薄さのためであると考えられる。

したがって、健診終了後のイメージが描き難く、検診結果の取り扱いに対する理解が不足したと考える。学生は各検診の結果が整理されて、診断がつくまでの状況は見学しているが、今後は実際に受診者の手元へ届く健診結果の内容や、毎年健診を受けている受診者の健康教育を通して、健診結果をどのように日常生活に活かしているかなど、結果の取り扱いについて具体的な説明が必要であると考えられる。

4. 評価項目4《生活習慣病予防における看護の役割について理解できる》については、記述件数が一番多く、評価平均点も一番高いことから、学生は健康増進センター実習を通して、生活習慣病における看護の役割について最も理解することができているといえる。これは、看護師に同行して見学する実習形態であり、看護師の動きを間近で見ることができ、看護師の役割を考えることにつながったと考える。また、多くの受診者に対する健康教育を見学でき、一人一人の受診者に対して受診者の特徴から何を意図して教育を行ったかについて、看護師が説明しながら関わっており、学生の理解につながったと考える。

また、既に病棟実習を経験してきたことで、健康増進センターの特徴的な看護と比較することができ、看護の役割の理解を深めることができたと考えられる。

3年間の実習を通じて看護師が指導する場面をじっくり見学できる機会は少なく、健康教育の見学は看護師の指導技術を学ぶ機会にもなっており、学生自身の指導との違いを認識できている。実習終了後のアンケート調査でも、看護師の指導技術に感銘を受けたという感想が多く見受けられた。

5. 評価項目5《健康教育のあり方について考察できる》については、記述内容の検討から具体的な健康教育の方法や内容・健康教育の必要性については記載されており、学ぶことができているといえる。しかし、評価項目5に対して抽出された5つのサブカテゴリーは、いずれも評価項目2《生活習慣病と疾患の発生要因の関連性を認識できる》と同じであっ

た。これは、実感したことがそのまま述べられている現状であり、健康教育を理論化した考察にまで発展した記述内容ではないことが明らかとなった。多くの受診者の健康教育を見学してはいるが、対象を生活者の視点で捉える意識が低いこと、今までの実習と関連させて考えることができていないこと、講義から実習までの期間が長くあいていること、などが要因として考えられる。実習で見学できたことを、今までの実習と関連付けたり、成人看護学概論で学んだ理論と統合することが必要であると考えられる。

また、本研究のため改めて実習記録の内容を見直した結果、健康教育については、理論化し考察にまで発展した内容とはいえなかった。これは、健康教育について11の категорияが形成されたことから、「健康教育についてのまとめ」という記録用紙の設問が漠然としていたため、様々な視点での記述内容があったことが伺えた。したがって、教員自身も深く読み取ることができていなかったことが考えられ、教員評価の平均点3.0点は記述内容に比べて高かったのではないと思われる。今後は、実習記録の設問項目を焦点が絞りがやすく、記述内容が明確にできるように考慮することや、キーワードや記述内容についても評価基準を定めておく必要性が示唆された。

6. 考察1～5より、成人看護学実習の最終クールで健康増進センターの実習を行うことは、一人の人が健康な段階から健康に障害を来し、入院から治療に至る経過が分かり、様々な健康レベルに応じた看護の必要性を理解することにつながる。また、卒業時に必要な看護実践能力としての健康の保持増進と健康障害の予防に向けた支援を学ぶことができ、対象に応じた看護を実践する能力の育成につながる機会となり意義がある。

しかし、対象を生活者の視点で捉える認識が不足しており、実習で体験したことを基に健康教育について理論を活用した考察をするには至っていないことが明らかとなった。現在の事前オリエンテーションでは、実習指導者より、健康増進センターについての概要の説明を行い、続いて教員より、生活習慣病や

ヘルスプロモーションについて成人看護学概論で学んだ既習学習と実習との関連性や、実習目的について説明していたが十分であったとはいえない。今後、健康増進センター実習の学習効果を上げるためには、実習の意義が明確にでき、講義と実習の関連性が意味づけられるようなオリエンテーションの実施が必要である。

また、現在のカンファレンスは、学生間の学びの共通理解や、健康増進センターの看護の役割、対象の健康レベルに応じた看護の役割の必要性について行ってきた。しかし、今回の記録の分析結果から、対象を生活者の視点で捉えることができ、実習で体験したことを基に健康教育について考察ができるよう教員が助言を行い、カンファレンスを充実させることが課題として挙げられる。

さらに、学生の記録内容の分析から「看護の役割」や「健康教育のまとめ」という記録用紙の提示では記述内容の焦点が定まらず、対象の特徴についてや、健康増進センター看護の特徴など様々な内容の記録が混在して書かれていることが明らかとなった。そこで、看護の役割や健康教育について記述内容が分かり易く、思考段階が踏める記録用紙に変更する必要性も示唆された。

## VI. 結 論

健康増進センターの実習記録の学びと評価項目の得点割合の照合から、目標の達成度の分析を行った結果、以下のことが明らかになった。

1. 健康増進センター実習では、実習目標である生活習慣病の予防と健康教育について学ぶことができています。しかし、対象に応じた健康教育を考察できるまでには至ってはいない。
2. 健康増進センター実習は、「対象に応じた看護」の理解の一因となり成人看護学実習の目標達成のためには有効である。
3. 健康増進センター実習は、看護職者として取り組む健康の保持増進と健康障害の予防に関わる能力の育成につながる機会となり意義がある。
4. 今後の課題として、学習の機会を有効に活用するために学内事前オリエンテーションの充実を図ること。学生が経験したことを

考察へと結び付けていくことができるように、カンファレンスでの教員の働きかけが必要なこと。記述すべき内容の焦点を絞ることができ、思考段階を踏むことができるように実習記録用紙を変更する必要があること、などの実習方法の検討の必要性が示唆された。

## 謝辞

本研究を行うにあたり、快く協力して下さった学生の皆様と、熱意あるご指導・ご協力頂いたA病院健康増進センターの指導者・スタッフの皆様に深く感謝致します。

## 引用文献

- 1) 石井邦子：「看護教育のあり方に関する検討会(第二次)」を終えて，看護教育，Vol.45(6)，p.435-463，2004.

## 参考文献

- 1) 逸見英枝，松本幸子，横川絹恵，白神佐知子：成人看護学実習における学生への学習効果～実習総括記録内容の分析を通して～，新見女子短期大学紀要，第19巻，p.159-167，1998.
- 2) 上田幸子，横川絹恵，白神佐知子，逸見英枝，松本幸子，：成人看護学慢性期実習における透析センター見学実習の意義，新見公立短期大学紀要，第30巻，p.151-158，1999.
- 3) 氏家幸子（監修）：成人看護学A成人看護学原論，廣川書店，1997.
- 4) 島村美穂子，鳴海喜代子，澁谷えり子，中澤容子，會田みゆき，中村織恵：看護学生の慢性期疾患患者理解の傾向について（第1報）～腎センター実習における実習記録の分析から～，埼玉県立大短大部紀要，第1号，p.37-45，1999.
- 5) 廣瀬現代美，中西陽子，青山みどり，奥村亮子，二渡玉江：成人看護学実習におけるグループによる集団患者教育の学び～学生のレポートによる評価の分析～，群馬県立医療短期大学紀要，第10巻，p.41-48，2003.